

令和4年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

自然環境課

1 施設の概要等

施設名	帝釈公園施設		
所在地	庄原市東城町三坂		
設置目的	すぐれた風景地である自然公園の利用の増進を図り、もって県民の保健、休養及び教化に資する。		
施設・設備	ケビン（5人用、10人用）、オートキャンプ場、多目的ホール（体育館等）等		
指定管理者	4期目	H31.4.1～R6.3.31	（一財）休暇村協会
	3期目	H26.4.1～H31.3.31	（一財）休暇村協会
	2期目	H21.4.1～H26.3.31	（一財）休暇村協会
	1期目	H18.4.1～H21.3.31	（財）休暇村協会

2 施設利用状況

利用状況	年度	目標値 [事業計画]	入場者数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	4期	R4	24,000人	30,810人	4,417人
R3		23,000人	26,393人	11,297人	3,393人 (114.8%)
R2		23,000人	15,096人	△11,768人	△7,904人 (65.6%)
R1		24,000人	26,864人	3,502人	2,864人 (111.9%)
3期平均	H26～H30	24,500人	23,362人	△371人	△1,138人 (95.4%)
2期平均	H21～H25	22,600人	23,733人	2,436人	1,133人 (105.0%)
1期平均	H18～H20	—	21,297人	2,341人	—
	H17 (導入前)	—	18,956人	—	—
増減理由	行動制限が解除され、ケビンの団体利用が回復するとともに、週末における個人利用も増えたため、目標を達成した。				

3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	【実施方法】	【対象・人数】
	アンケートの実施	施設利用者 235件
	【主な意見】	【その対応状況】
	ケビンにドライヤーが欲しい カメムシが多かった	以前から要望のあったドライヤーを設置した。 駆除のための薬剤散布を行った。

4 県の業務点検等の状況

項目		実績	備考
報告書	年度	○	事業報告書
	月報	○	月次業務報告書
	日報（必要随時）	—	
管理運営会議（3回・現地）	【特記事項等】 利用状況を踏まえた、施設の不具合などの現状把握と適切な対応 【指定管理者の意見】 利用者の要望や老朽化に対し、必要に応じて施設の改修・修繕箇所を県と協議する。 【県の対応】 指定管理者の意見（利用者のニーズ）や施設の安全面等の重要度などを踏まえ、施設の改修・修繕を進める。		
現地調査（6月、12月に実施）			

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
	4期	R4	4,328	△5,357		4期	R4	57,502	8,302
県委託料 (決算額)	4期	R3	9,685	5,851	料金 収入 (決算額)	4期	R3	49,200	2,652
		R2	3,834	1,693			R2	46,548	△17,091
		R1	2,141	289			R1	63,639	10,183
		3期平均 H26～H30	1,852	52			3期平均 H26～H30	53,456	11,607
	2期平均 H21～H25	1,800	△531	2期平均 H21～H25		41,849	2,087		
	1期平均 H18～H20	2,331	△660	1期平均 H18～H20		39,762	2,128		
	H17 (導入前)	2,991	—	H17 (導入前)		37,634	—		

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項 目		R4 決算額	R3 決算額	前年度差	主な増減理由等	
事業	収 入	県委託料	4,328	9,685	△5,357	新型コロナウイルス感染症に係る委託料の減
		料金収入(※1)	57,502	49,200	8,302	ケビン利用者数の増
		その他収入	3,352	2,826	526	食材やレンタル物品貸出の増
		計(A)	65,182	61,711	3,471	
	支 出	人件費	33,351	37,075	△3,724	派遣社員の減
		光熱水費	8,087	7,608	479	燃料価格等高騰による増
		設備等保守点検費	1,190	1,689	△499	濾過設備点検費用の見直しに伴う減
		清掃・警備費等	5,653	4,755	898	利用増に伴う清掃回数が増
		施設維持修繕費	496	820	△324	修繕の直営に伴う減
		事務局費	4,529	5,272	△743	リース車両の減
		その他	7,036	7,246	△210	保険料の減
	計(B)	60,342	64,465	△4,123		
		収支①(A-B)	4,840	△2,754	7,594	
	自主事業 (※2)	収 入(C)	—	—	—	
支 出(D)		—	—	—		
収支②(C-D)		—	—	—		
合計収支(①+②)		4,840	△2,754	7,594		

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を発揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	○施設の設置目的に沿った業務実績	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、ケビンやキャンプ場、多目的ホール等の利用提供を行った。	新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら適切な業務運営に努めていることは評価できる。
	○業務の実施による、県民サービスの向上	朝の散歩会や星空観察会などの施設の特徴を活用したプログラムを行った。	施設の特徴を活かし、施設の利用者に対するサービスの向上に取り組んでいる。
	○業務の実施による、施設の利用促進	コロナ禍でセールス活動を控え、ホームページの更新やメールマガジンの発行、ニュースリリースなど休暇村協会と協力して利用促進に取り組んだ。	コロナ禍により活動が制限される中で、オンラインでの広報やマスコミへのニュースリリースなど、継続して営業活動に取り組んでいる。
	○施設の維持管理	毎月施設点検を行い、老朽化に伴い修繕が必要な箇所について、県と連携し修繕等を進めた。	安全面や施設運営に支障をきたすものを優先して対応している。
管理の人的物的基礎	○組織体制の見直し	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ柔軟に人員配置を行った。	利用状況に応じて組織体制の見直しを行っている。
	○効率的な業務運営	コテージテラスの焦げ跡の補修やエアコンの取り換え、屋外テーブル制作など業者へ依頼せず休暇村スタッフで行った。	必要な修繕を直営で行うなど、経費縮減に努めている。
	○収支の適正	ケビン利用者が増加傾向となり、外注業務の見直しや利用客に応じた勤務体制の見直しを行うことで、黒字転換することができた。	収益性を高める取組や経費縮減により、収支の適正化を達成している。
総括		アウトドア・野外施設の需要の高まりもあって施設利用も回復し、これまでと同様に経費削減に努めたこともあり、結果として黒字を出すことができた。	積極的な営業を行うとともに、必要な修繕を直営で行うなどの経費節減や効率的な営業を行った結果、黒字転換したことは十分評価できる。

8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和5年度)	今後の利用者の増加に向け、安心して利用していただけるように要整備箇所の修繕を確実にを行い、利用促進につながる取組を企画・実施する。	引き続き、利用促進に効果的な取組が実施できるよう、施設改修や利用者ニーズを把握した取組について、必要な支援を行う。
中期的な対応	老朽化が進む各施設の状況を把握し適切な維持管理を行うことで利便性を高め、サービスの向上を目指し、リピーターを増やすことで安定的な経営に努める。	指定管理者と協議しながら、優先度の高い施設から計画的に対応を行うとともに、利用者増に向けた取組や効果的な施設運営に必要な支援を行う。